

校長のつぶやき II

校長室便り 第61号

令和3年3月24日 山内

○終業式校長講話 —夏炉冬扇—

岩高生の皆さん、そして先生方おはようございます。

コロナ禍で大変な一年でしたが、年度はじめに立てた目標、「赤点ゼロ」「問題行動ゼロ」という目標をほぼ達成できました。「結果よりも過程重視」ということも年度はじめに皆さんに話しましたが、岩高生一人一人が十分な結果に結びつかなくとも、一生懸命努力する過程こそが大切だと取り組んだ結果だと思います。コロナ禍にあっても立派な学校生活でした。岩高の校長であることを改めて誇りに思います。



さて、今日は1年の終わりに夏炉冬扇（かろうせん）という話をします。短時間で終わりますので聞いてください。この言葉は夏の暖房、冬の冷房といった意味です。ですから、時期はずれの無駄なものたどえ。また、無用なもの、役に立たない言論や才能などのたどえとして使われます。夏の暑い時のストーブに真冬の寒い時の扇風機ですから時期はずれの無駄なものというのがわかります。

でも本当はもっと大事な意味があって、そのことを皆さんにわかってもらいたいのです。夏のストーブに冬の扇風機は一見すると不要に思われますが、必ず必要となる時が来ます。その時（＝出番）に備えてしっかりと準備をしているのです。または、夏の暑い時でも暖房を必要とする人はいます。今日もまだまだ寒いですが、冷房を必要とする人もいるはずで。

つまり、人というのは必ずどこかで誰かの役に立っているのです。この世の中に役に立たない人などいないのです。目に見えないところで役に立っていますし、腐ったり・あきらめたりしないで仕事をしっかりしていれば、目に見えてチャンスは必ず訪れるということです。

一年の終わりに夏炉冬扇（かろうせん）という言葉を紹介しました。皆さん今日も話を聞いてくれてありがとうございました。

○高校入試無事終了 —48名の新入生たち—

3月4日（木）から始まった高校入試も22日（月）の二次募集ですべて無事に終了しました。48名が岩高に入学してきます。あすは予備登校です。お待ちしております。

○春の選抜甲子園 —酒井校長先生と菊田先生—

3年前、10日間ほどの研修に行きました。正直あまり気が進まなかったのですが、いざ行ってみると様々なことについて勉強になり充実した日々でした。その時同じ班だったお二人の先生の学校が春の選抜甲子園に出場しているので、連絡をとりあって応援していました。長崎の大崎高校、県立岐阜商業ともに1点差で敗れましたが、公立高校として本当にすばらしいチームでした。皆さんも授業以外の集会や研修や行事を避ける人がいますが、そういう人は大切な物や人との出会いのチャンスを自ら消してしまっているかもしれません。

○離任式 —3月29日（月）—

出会いと別れの時期です。明日25日（水）の朝刊に先生方の人事異動が掲載される予定です。離任式は29日（月）に行われます。ではこれで今回のつぶやきは終了です。県内は4月11日まで緊急事態宣言中です。